

平成22年度特色ある学校づくりサポート事業計画書

1 事業の名称 「確かな学力と心豊かな子どもを育てる地域と学校のネットワークづくり」
～西袋地区におけるMCL推進運動を中心に～

2 事業の目的

基本的な考え方

- ・ 西袋地区は、須賀川市市街地の西部及び北部に隣接し、昭和40年代以降西川土地区画整理事業、西川第二、山寺及び下宿土地区画整理事業や民間の宅地開発、さらにはアパートの建設などにより急激に発展してきた地域と、昔からの農村地帯が存在する地域から成り立っている。
- ・ 今回の事業は、西袋地区各小・中学校の校長及び公民館長、明るいまちづくりの会西袋地区会長が集まり協議を行い実施することとなった。明るいまちづくりの会西袋地区会については、その会長・副会長である各区長・町内会長に説明をし、この事業の了解を得ている。
- ・ 平成21年度から3年間の継続事業として、今年度(22年度)西袋第二小学校が主管校としてこの事業を実施することとなっている。

(1) 目的

西袋地域の児童生徒がメディアと節度ある接し方や使用方法をすることにより、規律ある生活や学習習慣を形成するとともに、学力の向上を図る。

メディアを上手に活用し、家族や地域の方々とのふれあいの持てる人間性豊かな児童生徒を育てる。

児童生徒の健全育成を図るとともに、コミュニティを大切にする人材を育て、地域全体のコミュニティの活性化につなげる。

(2) 事業を実施する理由

近年のメディアの急速な発達や普及により、児童生徒はテレビの見過ぎ、ゲームのし過ぎ、携帯電話やメールなどによるトラブルの発生などが、社会問題化している。

脳とメディアとの関係などを研究している専門家によると、児童生徒のメディアとの接触時間が長くなると、感情がうまくコントロールできなくなる、相手を思いやることや命の大切さがわからなくなる、外遊びをしなくなることで体力が落ち、けがをしやすくなる、テレビゲームなどの平面画面を見続けることにより、立体感覚がなくなり視力の発達に影響があるなどの報告がなされている。

昨年度実施した西袋地区の小・中学校のアンケート結果によると、全国平均よりメディアとの接触時間が少ないとの結果が出ているが、現段階からメディアをコントロールした生活に学校を中心とした地域をあげての取り組みにすることにより、児童生徒の健全育成を図ろうとするものである。

また、このMCL推進運動の他に一昨年度から実施している小・中連携、小・小連携を継続して実践することにより、以下の点について実践を進めていきたいと考えている。

- ・ 児童生徒の義務教育9年間を見通した継続的な学習指導や生徒指導を円滑に進めるために、小中学校の連携を促進していく。
- ・ 西袋地区小・中連携並びに小・小連携のもとに、西袋地区内の教育の向上を図るため組織や運営のあり方について研究改善する。

- ・ 小・中連携担当者を中心として、各小中学校で実践する教育活動について平成23年度学習指導要領全面実施に向けての共通的な取り組みができるよう研究実践する。

3 事業の具体的内容

(1) MCL 推進運動

平成 22年度	6月27日(日) MCL 推進大会	MCL(メディア・コントロール・ライフ) ・ 西袋地区小中学校及び保護者そして地域が一体となり、メディアについて理解を深め、メディアを主体的にコントロールすることにより、児童生徒の健全育成、家庭学習時間の確保、家族のつながり・地域コミュニティの進展を図るようにしていく。
	1年を通して	・ 児童会、生徒会を中心とした各学校の MCL 運動継続実践 ・ カレンダーを活用しての各家庭での実践
平成 23年度	今まで取り組んできた成果について取りまとめるとともに、講師をパネラーとしたパネルディスカッションを開催し、3年間の取り組みのまとめをする。	



(2) 小・小連携、小・中連携の取り組み

学 期	小 学 校	中 学 校
1 学期	児童一人ひとりの学力実態の分析	「確かな学力の定着についての取組み」
	第1回小中連携連絡会議(4/20)	・各校の取組みの意見交流、課題の明確化 ・今後の活動の確認
	小中連携学習環境部会(6)	・学習習慣確立、家庭学習の習慣化のための9年間の取組 ・授業研究相互交流の計画
	授業研究相互交流	授業研究相互交流
2 学期	生徒指導特別委員会(9/3)	
	小小連携合同授業(10/19)	
	授業研究相互交流	授業研究相互交流 小中連携授業(授業・部活動体験)(11/)
3 学期	第2回小中連携連絡会議(2/)	・今年度の事業の評価・改善について ・来年度教育課程への位置づけについて
	小中連携英語の授業(2/)	
	研究のまとめ、児童一人ひとりの学力の分析	
	中学校との引き継ぎ、事務連絡、中学校教諭授業参観(3/)	

(3) 事業の目標達成度を把握するための指標名や及び数値

	項目	左の目標及び効果を把握するための指標名及び数値
M C L 推 進 運 動	目標の達成度を把握するために適 当な数値指標名(その1)	指標名(平日の平均メディアの利用時間)
	順調に達成された場合の数値	(平日1日のメディア利用時間)が(2時間)以下
	ほぼ順調に達成された場合の数値	(同上)が(2時間~3時間)
	順調に達成されなかった場合の数値	(同上)が(3時間)以上
	目標の達成度を把握するために適 当な数値指標名(その2)	指標名(休日の平均メディアの利用時間)
	順調に達成された場合の数値	(休日1日のメディア利用時間)が(3.5時間)以下
	ほぼ順調に達成された場合の数値	(同上)が(3.5時間~4時間)
小 ・ 中 連 携	目標の達成度を把握するために適 当な数値指標名	指標名(市総合学力テストの目標値に対する到達度)
	順調に達成された場合の数値	国語・算数とも 到達度75以上
	ほぼ順調に達成された場合の数値	(同上) 到達度70以上
	順調に達成されなかった場合の数値	(同上) 目標値を下回る

4 実施期間 平成22年5月 から 平成23年3月まで

